

安心して暮らせるには

第一田名部小学校 六年 賀佐 海翔

とある日曜日、家族で青森市へ、車で移動している最中の出来事でした。前の車が停止  
していて、父が運転している事も、当たり前前  
のように停止しているし、いきなり、  
「ドンッ」と後ろから、大きな、しっしうげ  
き音で、玉付き事故に合いました。不幸中の  
幸いで、この事故で誰一人死亡することは、  
無か、たのですが、後に自分が、めまいを起

こし、病院へ何度が受診したり、父の車の後  
ろの車は、マシヤニコになり、運転してい  
たおじさんも足から血が出たりしていました。  
玉付き事故を起こした方は、おき見運転を  
たそうです。事故から、何ヶ月経っても、  
てもこわかったのを今でも鮮明に覚えていま  
す。

また、自分以外の生徒で、通学路の階段で  
転んでしまい、骨折した同級生や、自転車に  
乗っていて、道端を曲がろうとした時に、車

か来て、ぶつかりそうになり、自転車に乗っていた人が、急ブレーキをかけたけど、顔面を壁におもい、きりぶつけて、色んな所に傷かできた人もいました。

その傷だらけの顔を見て、自分は、うかなり傷ができていて、痛そうだな。平気そうな顔をしているけど、痛くないのかな。と思います。

このような体験をした人達の話聞いて、自分自身、登下校中や、外で遊ぶ時など、外に出る時は、転ばないようにゆくり歩いたり、曲がる時は、車が止まっているか、または、来ていないか、左右の確認をし、カリするところ、人が安全な場所にいることに気を付けな

いして、大変な事になると思いました。  
また、学校では、年に一度、交通安全教室をします。

交通安全教室では、低学年は、信号の正しく渡り方や、道路を歩く時は、左右のどちら側を歩けば良いのかという事をします。

中学年、高学年は、自転車に乗る前に点検するべき場所や、自転車に乗って走る際にはヘルメットをやるべきという事を習いました。なぜヘルメットをやるべきかというて、ヘルメットをしていないと、頭を打ってしまったり、死に至る確率が高くなってしまうからです。

学校のろう下を歩く時のルールど、車を運転する時のルールが似ている気がします。

なぜなら、学校のろう下は走らないというのは、車のルールで言えば、時速50キロの所は、50キロまで、その本を越えてしまうと、違反という速度に関するルール。ろう下は右側通行というのは、車のルールで言えば、左側通行という左者に関するルール。

ろう下で遊ばない、居座らないは、駐車禁止の所に車を止めたら、違反という、場所に関するルール。

というように、車のルールで、学校のろう下のルールは似ています。

そして車を運転する側も、歩行者側も安全

でいるためには、おき見運転や居眠り運転を  
しないことや、お酒を飲んだら、必ず、代行  
を頼んで、飲酒運転を防ぐこと。また、車も  
自転車も、ライトをつけ、歩行者は、ライト  
の光が当たると光る反射板を身に付けたリ、  
小さな子供には、親が付いてあげること。道  
路では、走らないようにすると事故が減ると  
自分は思います。

最後に、交通事故は、誰も得にもならず、  
悲しくむだけですよ。

自分の家族や、友達、マッパが安心して暮ら  
していける、町づくりとして、歩行者も運転  
車も、おたがいに、ゆずり合い、ルールを守  
つていければなと思います。